

「ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム
(ゲノム医療実現推進プラットフォーム・国際的データシェアリングに関する課題解決のための調査研究及び開発研究)」
研究開発課題 事後評価結果

研究開発課題名	クラウド計算環境を利用したゲノム医科学研究の倫理・技術課題の調査と実践
代表機関名	国立国際医療研究センター
研究開発代表者名	徳永 勝士
全研究開発期間	令和元年度 ～ 令和3年度

【評価コメント】

本課題は、大規模なデータを保管・共有・解析を行う仕組みとしてクラウド環境の利用を促進のための調査と解析を目指し、倫理課題と技術課題の調査、および GWAS データベースの構築とクラウド環境の構築と解析を実施した。特にクラウド利用の倫理課題に関しては、インフォームド・コンセントの際にクラウドサービス事業者の選定方針と事業者との責任の分担を説明する義務、研究対象者に ICT やデジタルヘルスに関する学習機会の情報提供を行う努力義務、適切な場合には、データ共有・管理体制に市民の参画を促す仕組みの導入の検討を求めるといった、具体的な提案が示された。また、クラウドサービス利用上の注意点を明確にし、遺伝情報に関するクラウド環境の構築と解析の実践を通じて、将来的なクラウド上での遺伝情報解析の基盤を作ったことは評価できる。

本研究課題で構築したモデルの有効範囲、国内におけるその汎用性や他の研究機関での活用に向けた展望、諸外国におけるクラウド利用実態、倫理的側面の調査から得られた提案の活用のされ方について、現在の問題点や今後の流れなどを整理した上で解決に向けて更に成果を展開いただけるよう期待する。

以上